

エゾマツ



No.68 2004. 3. 28

北海道ボランティア・レンジャー協議会

目次

1. 巻頭言 躍動!の春を迎えて 会長 川 端 功 治 (1)
2. 16年度 定期総会 (3)
3. 会員の声 (4)
4. 富良野便り 中 山 和 恵 (7)
5. 20周年記念事業について (8)
6. 図鑑と短歌と私 長谷川 俊 治 (11)
7. ナナカマドを小鳥のイチゴと呼んでみたい --- 佐 藤 清 一 (12)
8. 大雪山お鉢めぐり 伊 藤 秀 平 (13)
9. 冬の円山登山観察会 (15)
10. 観察会・研修会(案) (16)
11. 編集後記 (20)

躍動！の春を迎えて

会長 川端 功 治

待ちに待った春です。黄緑の野山もやがてその濃さを増し、緑一色の景色に塗り替えられた初夏を迎えることになりましょう。それと共に森林の観察会が活況を呈し、久しぶりの歩道散歩に感動した参加者の質問も活発になります。

「先生！原始林とはどのあたりの林のことを云うのですか？」という質問が案外多い。それは新聞やテレビのコマーシャルで「サア春を尋ねて野幌の原始林へ行こう〇〇の会、藻岩原始林を登れば札幌一望登山会」、中には「原始の面影タツプリの北大構内散歩会」。

かってヘソ曲がりと言われた人の言葉に「毛皮を纏って、こん棒をふり回してマンモスと闘い、恐竜に追われた原始人がサボテンやシダが繁る所に逃げ込んだ林が原始林と云う。従って今時そんな林が地球上に存在する筈が無い」と切り捨てて、これでは夢も希望も無いことになります。

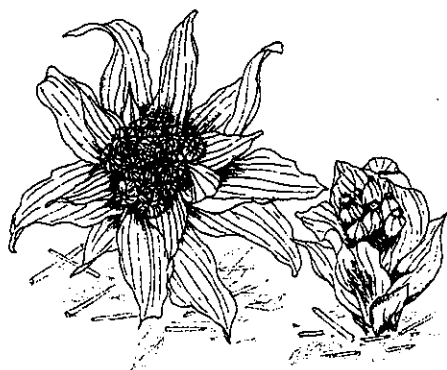
それで生物学の堅苦しい解釈を一般向けに判りやすく解説した広辞苑、大辞泉、等によれば「原始林又は原生林とは昔から現在まで一度も人手が加えられたことのない自然のままの森林のこと」とあります。そこで気難しい生物学の解釈を参考までに掲記しますと「広義には伐採その他の人為や、火災などのおよんでいない森林をさす一般的な語、災害地のあとに天然に成立したものでもよく、極相群落にいたる途中のものをもふくむ。狭義には人為的な変化をうけず、極相に達して永く変化しない森林を指す」とあります。

いずれにせよ、野幌、藻岩山、北大構内には原始林は残念ながらありません。良く保存された地域には皆様のご希望に沿うような自然林が結構ありますと質問に対応しておりますが、会員各位の活動エリアの林相は如何でしょうか。そして原始林を見たいと言うお客様が居たら、どのように対応されておりますか。

私はその様な場合には躊躇すること無く、東大の富良野演習林の見学をお勧めして居ります。そこには今は亡き自称「ドロ亀先生」（元東大富良野演習林長）（高橋延清氏）の足跡が広大な林内に隈なく印されております。高木の樹木に付き易い木材腐朽菌（サルのコシカケ）木、胴腐れ木、の伐除。競合する成長阻害木の整理等、林業技術上なすべき事を悉くなし遂げた足跡を見る事が出来ます。徹底的に人手を加えた森林が夢にまで見た原始林とそつくりなのは皮肉な話で、原始林定義は生き立ちが大切か、現況かの論議が必要です。

私達の祖先が生活の全てを大自然の恵みに頼りきって生き延びてきた血が流れています。自然に憧れ慕う血が騒ぐ為に「原始林指向」が独り歩きを始めたのを巧みに捉えたのがツアー会社のキャッチフレーズでしょう。けれどもドロ亀先生が目指した民族の資産として、戦争がもたらした乱伐、巨大な台風被害、窮迫した燃料需要、に耐えてきた歴史を修復する使命に燃え尽くした一生は立派です。それが道内一の美林となつて、原始林と間違えられるとは。

なお4月には会員の参集を戴き総会が開催されます。各位の英知を結集したご討議を戴く訳ですが、各地方のローカルニュースも、話題として沢山に提供して戴くと、これからの当会の在り方運営の進め方に大きく寄与するものと期待されますので、宜しくお願い申しあげる次第です。



平成16年 第19回定期総会日程

日 時 平成16年4月10日(土) 13:00~17:00
場 所 環境リポートセンター

札幌市北区北7条西5丁目 千代田ビル1F

日 程 ・受 付 13:00~

・研 修 会 13:30~14:40

講師 国営滝野すずらん丘陵公園

青少年山の家館長 角谷 毅 様

・総 会 15:00~16:30

《総会終了後》

・懇 親 会 17:00~ 会費3500円

会場 うおや一丁

(札幌市北区北6条西1丁目JR高架下)

総会議題

- ・平成15年度事業報告並びに収支決算報告
- ・平成16年度事業計画(案)並びに収支予算(案)
- ・役員改選、その他

研 修 会

- ・研修会講演 演題 「総合学習と自然環境教育」

お 願 い

- ・多くの会員の出席をお願いいたします。都合で出席できない旨の報告をされた方でも、当日都合がつく方は是非出席ください。また、昨年と会場が違いますのでご注意ください。
- ・当日、16年度の会費を納入される方は受付ます。また後日振替用紙をエゾマツと共に同封致しますので忘れず会費納入をお願いします。
- ・総会についての問い合わせ (TEL011-791-0127 田村)

会員の声

ペーパー会員脱却を目指して

西興部村 安部 愛治

何年か前？ 札幌の総会に出席して以来のご無沙汰。昨年9月20日～21日の網走支部ボラレン研（北見自然の村）に参加して、学習と交流会～山野草の実習検索と中味の濃い研修を授かりました。

それにしても、会員各位の博学と知識の豊かさに圧倒されました。中味の乏しさを反省し、参加&接点の機会を多くして、ボラレン会員に相応しい存在を目指します。何でも情報をお寄せください。よろしく。

札幌市豊平区 武田 千恵子

今年初めて何回か案内させて貰いましたが、野幌に詳しい人が多くたくさん教えて貰っています。ふだん下を向いて草本類ばかり見ていたのも冬は大変でした。おかげさまで、だいぶ冬芽を覚えることができました。

前回案内した時「何故、サワグルミの一番外側の芽鱗が早くに落ちるのですか」冬芽はもともと寒さに強く、乾燥、病虫害から身を守る為、芽鱗があるのですがこれはどういう意味があるのでしょうか？ぜひ教えてください。

札幌市南区 今村 浩子

春ですね！子どものころ原っぱでのツクシつみを思い出します。食べてよし、遊んで楽しいツクシの原っぱ。最近あまり見られなくなった風景ですが、庭のオジャ

マムシときらわれものでもあります。

「ツクシだれの子、スギナの子」の通り、トクサ科、栄養茎がスギナ、胞子茎がツクシ、植物学上両者をスギナと呼ぶ。

胞子は湿った地面にうまく落ちると芽がでてゼニゴケに似た前葉体に育ち雌雄に成長した段階で、卵と精子が作られ受精卵が前葉体の上で、進化した葉・根を持つスギナが育ち始める。そしてツクシが育ち胞子がと。今ではひっそりと片すみで、または、やっかいなる程、増えて自己主張しています。地下茎の休眠芽からもスギナは育ちますが、抜いても残る地下茎にも、たくましさを感じますね。

私達ボラレンの活動も、たくましく、スギナの地下茎に似て、手をつなぎ最近環境のことが叫ばれる中、自然と多くふれあって、伝えていかなければならないことがたくさんあるはず。たのしんでボラレン、学んで、遊んで、自然の中でボラレン。

参加しましょう！

札幌市北区 田中利男

朝暗いうちに歩きだす。岳麓に寝たときの第一歩だ。フラノ岳は周囲を黒々とした上に少々明るく今日は晴れだと告げている。夏ではあるが、ひんやりと歩くには最高の温度だ。中腹にて朝めし、突然頂きが赤黄色に輝く、テッペンだけが光るのは何とも不思議な感じである。神が来たのか、輝きはどんどん下へおりて来る自然の夜明けなのです。

こんな事例に慣れていない身には感激の時です。つゆを付けた花々は首をふる如く陽の来るのを待ちわびているよう。光は身にふりそそぐ、やさしい暖かさだ。何と優しいやわらかさだろう。心の中よりじわーっと幸せがわきあがる。自然の中に身を置くこれこそ私達が生かされている原点なのだと感じる。

大いなる花々が迎えてくれる。赤・黄・白、花の多い山だ。私の初めてコイワカガミに出会った日でもある。あの忙しい日々、疲れの日々だが次の出勤の朝の何とさわやかな元気な事よ……、20年以上も前の山の日を今、思いうかべる……。

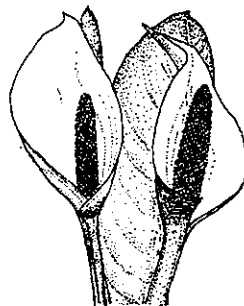
皆さんにどのようにしてこの自然の良さを伝えるか、その感激を教えるか、個人の感性だからどうしようもないか、むづかしいよな。私達のやっているレンジャーで、皆さんは楽しくそのヒモトキをやっている、えらいな。と思う。ジサマのひとりごとです。また、待っている森にてかけよう。

積丹町 佐藤 多美子

我家には15才になる犬がいます。もらって来た時に、きつねの子どものようにかわいらしかったので「コン」と名付けました。いつの間にか世話係となり、朝夕の散歩は私の日課です。時間に余裕のある時にはコンに合わせて歩いたり止まったりしながら道端の草花に目を止め、遠くの積丹岳を眺め海に見入り自然を満喫しています。時には山菜採り、キノコ採り、くり拾いも楽しみです。

昨日は雨あがりの道端で、ばっけ（美国町の方言で、ふきのとう）のつぼみを見つけ、そのやわらかな若草色は春の訪れを教えてくれました。もうすぐ雪解けのそばからエゾエンゴサク、エゾイチゲ、エゾノリュウキンカなどが次々と花を咲かせてくれることでしょうか。散歩は一層楽しいひと時となります。さあコン、今日ほどの道を行きましょうか。

自然に恵まれたこの地で、身近なところから草花の観察を今年もはじめ、時には友人達と野山にも出かけたと思っています。ボラレン小樽支部の観察会が6月に積丹岳でおこなわれる予定です。皆さん是非いらしてください。お待ちしております。



富良野便り

富良野市 中山和恵

カワガラスの声に誘われ、膝上までもある堤防の雪を、グレーダーのように掻き分けて登ると、いたいた！2羽のカワガラス。1月は繁殖期というカワガラスのデートをすっかりお邪魔してしまったようで、カワガラスは川面を「ビッ！ビッ！」と、鳴きながら川上へ、川下へと逃げ去ってしまった。

カワガラスをもっと観察しようと、戻るのを待つことに決め、堤防を下り、しばし川原の雪の絨毯に大の字になってみる。

とど松が、枝に重そうに雪を載せながらも、空に向かって背伸びをしている。柳の木々が、この川の主を誇示するかのように、川岸に群落を作っている。クルミの枝先の冬芽は、ふかふかなコートを羽織り冬芽の大きさを自慢している。

目の前の林が、何だか騒がしい、と思った瞬間、空には沢山の野鳥の群れ！

ヒレンジャク、キレンジャクの群れだ！。私には初めての彼等との遭遇で、カワガラスを静かに待つという意味さえ忘れ、双眼鏡を覗きながら「うわ～！うそ～！え～！」の連呼。林の中からミヤマカケス、ヒヨドリ、シジュウカラ等が飛び去ったのは、けして私が原因ではないと信じた。

束の間に木の上に止まりはしたものの、得体の知れない人間に見られているのが不快だったとみえ、集団で私の頭上から飛び去ってしまった。

渡りの野鳥との出会いに満足し、カワガラスの鳴き声を遠くに聞きながら、本日の観察を終了！と、歩きだすと、バリッ！と氷が割れた。うっすらと張った氷が、積もった雪に隠されて川岸をを広くしていた。不思議に、氷は一度割れ出すと一歩踏み出す度に、連鎖のように割れていく。割れた氷は雪を載せ、川を流れて行く。

「西達布川の流氷」と名付け、10キロ先の空知川に流れつくことを想像しながらいると、氷の上に何かいる。蚊？蚊だ！、こんな寒い冬に？こんなつめたい川に？「おまえ達、馬鹿蚊あ？」と、つい叫んでいたが、蚊にしてみたなら、私に言われなくなっただらう…。

それにしてもこの蚊、水の中も平気、氷も気温も平気！一体何者なのか！カワガラスはこの蚊を食するのだろうか？

調べる楽しみを又、増やししながら、一人観察を終え、堤防を又登り始める。キツネの軽やかそうな足跡の横に、必死で登る。滑稽な私の足跡を残しながら。

堤防の上に着くと、ナナカマドの赤い実にツグミが来ていた。地元の空の下も悪くはない、実に賑やかで、発見も新しい出会いもある。

富良野は本日快晴！野生動植物達も元気です！



ボランティア・レンジャー協議会20周年記念事業について

本会は2006年（平成18年）に結成20周年を迎えるにあたり、どのような記念事業を行うか、構想を立てる時期になりました。役員会ではこの窓口を五十嵐一夫副会長とし、事業計画を考えていくこととしました。

まず手始めに、会員の皆様にお考えを聞くこととし、昨年12月、次頁のアンケート調査をおこないました。本来でありますと、全会員にアンケートをおこなうべきではありますが、郵送費用等の関係で、地方幹事8名と無作為抽出の会員36名の計44名の調査をおこないました。

この結果を基にして、事業計画の具体化を図っていきます。会員の皆様にはアンケート結果をご覧になり、ご意見・ご要望がございましたら、事務局へご連絡いただければ幸いです。多くのご意見の中から、20周年事業に相応しい方向を探っていきたいと考えています。

北海道ボランティアレンジャー協議会 20周年事業アンケート調査票

1 どのような事業が良いか、良いと思われるものから順番をつけてください。

全道版フィールドガイドの作成	
各地での観察会開催	
記念講演会の開催	
記念品の配布（観察会で利用できるグッズなど）	

2 上記以外にアイデアがあれば自由にお書きください。

3 差し支えなければ、今後の連絡用にお名前とメールアドレスを教えてください。

お名前

メールアドレス

以上でアンケート調査は終わりです。ご協力ありがとうございました。

20周年記念事業アンケート調査結果

1 調査概要 20周年記念事業について、協議会会員の意向把握のため、別紙により、返信用封筒を同封し、会員44名（地方幹事8名を含む）にアンケートを送付した。

2 調査結果 回収26名(回収率59%)

- 1 ガイド 82ポイント
- 2 観察会 62ポイント
- 3 講演会 55ポイント
- 4 記念品 52ポイント

No	ガイド	観察会	講演会	記念品
1	3	4		
2	4	2	1	3
3	4	2	3	1
4	3	2	4	1
5	4	3	2	1
6	4	2	1	3
7	4	3	1	2
8	4		3	
9	4	3	1	2
10	3	2	4	1
11	4	2	3	1
12	4	1	3	2
13	4	1	2	3
14	4	3	2	1
15	4	2	3	1
16	4	3	2	1
17	1	3	2	4
18	4	2	1	3
19	2	3	4	1
20	3	2	1	4
21	1	3	2	4
22	2	4	3	1
23	4	2	3	1
24	3	2	1	4
25	1	2	3	4
26		4		3
	82	62	55	52

3 意見・アイデア等

- ・事業予算を先決すべき、具体的に再検討すべき
- ・エゾマツ20周年特集号
- ・記念行事より、日頃の行事主催行事に勤めることが大切。
- ・観察会記録用ノート、20周年記念バッジ
- ・各地別動植物記録
- ・20年の歩み、記念バッジ
- ・全道版フィールドガイド可能ならばぜひお願いしたい。
- ・全道各地の会員は札幌の開催行事にほとんど参加できないので、各自に20周年記念グッズがよいと思う。
- ・下見より充実した観察会の実施

図鑑と短歌と私

帯広市 長谷川 俊 治

昨年、新会員として入会した私は、この冬の間は本来なら暇さえあれば植物図鑑、鳥類・動物図鑑などを見て、大いに勉強に励まなければいけない時期と言えます。

しかし、ものの名前を覚えるほど私にとっての苦行はなく、自然が好きならすぐ覚えられそうなものですが、美しいものを美しいと感じる心とはまた別の次元の話のようで、いつの間にか図鑑は脇へ押しやられている毎日であります。

そんなときは、初めてまだ一年余りの短歌に興じていたりしております。作歌のほうはまだ下手なので披露できませんが、最近では他の歌人の作品を鑑賞しては、無い想像力をかきたてております。

そんな中で、先日同じ帯広在住の歌人、時田則雄氏の歌集「十勝劇場」の中から面白い一首を見つけましたので紹介したいと思います。

空を裂き急降下するオオジシギ 円固めの人生もある

最初、読んだだけではただ冗談ばい感じしかしませんが、幾度も読み返していくとよく観察されていることがよくわかります。急降下するオオジシギの降下姿勢は羽をM字型に曲げて確かにプロレスの円固めのようにも見えます。そして、その急降下を何度も何度も繰り返す様が、まるでそれがオオジシギの宿命のようにも見える、という歌であることがわかります。

それは私も子供の頃、飽きもせずにオオジシギ（子供同志では、バババドリと呼んでいた）の急降下をずっと見ていたから、この歌が味わえた次第でオオジシギの急降下の一連の動作は、まさに図鑑など見てもわかるはずありません。あらためて、観察に勝るものはないのだなあ、と再び図鑑を脇によけて来る春を待ちわびている私です。

ナナカマドを小鳥のイチゴと呼んでみたい

北広島市 佐藤 清一

みんなが認めているように、ナナカマドの果実が秋に真っ赤に熟した姿はとても美しい、初夏の白い花の季節も清楚な感じがしていいのだが。

そのため、旭川市をはじめ江別、石狩など多くの市町村で街の木と指定し、その数は36の自治体にもひろがっている。その他の市町村でも公園に植えたり街路樹などにしたりして大切に育てている。まさに北海道の木というべきかもしれない。

私の狭い山歩きの経験でしかないが、大雪山系の赤岳の麓や高原温泉の紅葉は最もすばらしいと思う。

また旭川に長い間住んでいたこともあって、駅から市役所に通じる緑橋通りのナナカマド、その赤い身の上に新雪が覆い、小鳥たちが群がる場景がとても好きであった。先日の「朝日新聞」に、市民の鳥にしている「キレンジャク」の大群がシベリアから飛来してきて、その果実を啄む光景が掲載されていた。とても懐かしかった。この鳥は翼の一部と尾の先が黄色いが、頭部から胸にかけて薄い赤色なのでこの樹木や果実の色調ととてもよく調和がとれているように見えた。まさに、この木の果実を<小鳥のイチゴ>と呼びたい、という思いにかられたりしていた。

ドイツでは、このナナカマドの木を<小鳥のイチゴの木> (Vogelbeerbaum)、その実は<小鳥のイチゴ> (ベリー) と呼んでいる。そこには自然の生態系のなかで名付けられているように思われる。

私たちが呼んでいるナナカマド、人間の日常生活からの思いが込められていてなかなかいいと思ってはいるが、人間の樹木に対する利用の側面から呼び名をつけてきたように考えられる。今日からみると、もう少し動植物を含めて自然をトータルに見る視点があってもいいように思ったりしている。

なお、日本にも別名がいくつかあって北欧の神話から名付けたと思われるライデンボク (雷電木)、青森、秋田などではカクスミ、新潟、長野などではヤマナンテン、先住民であるアイヌの人たちはキキンニ (エゾノウスクミズザクラ) と呼んでいるようである。

大雪山お鉢めぐり

札幌市東区 伊藤 秀平

山の仲間と昨年の8月2日～3日、大雪山お鉢めぐりを計画し、実施しました。

週間予報では快晴の予報で、良い山行が出来ると期待していたが、当日の朝は曇り、天気は下り坂だったが、一応キャンプの準備も出来ているので出かける事にした。

8月2日、朝8時地下鉄大谷地駅に集合、高速を利用して層雲峡に向かう。

途中砂川PAでトイレタイム、永山JAで買い物の時間をとり、黒岳のロープウェイ到着は昼頃になった。

走行中、時々小雨が降り気になっていたが、層雲峡に着く頃は本格的な雨降りになった。昼食を取りながら計画を検討し、このまま登ってもテントの設営、食事の準備が大変と層雲峡キャンプ場泊まりに変更した。

暫くすると雨も止んだ。変更によって時間が出来たので、朝陽山に登ろうかと、コースを調べにビジターセンターに行ったが、「登山者も少なく、登山道も荒れているので分かりづらいから。」の回答。

止む無くビジターセンターでVTRを見て大雪山の四季の学習？をする事にした。

キャンプ場でも時間があるので、隣の「かんぼの湯」に入浴、近くの散策をしてのんびりと過ごし、早くから歓談と酒宴で盛り上がり、明日の天候回復を願って早々と眠りについた。

翌日、4時起床、朝食は簡単な「餅入りラーメン」を食べて5時出発。ロープウェイ駅に着くと、温泉泊まりの客や山岳ツアーの客で混雑していた。

その為かロープウェイの運行が10分早まり、一便が5時50分の出発。

リフトに乗り継ぎ、曇り空の中6時40分に登山開始。残念な事に黒岳山頂に着く頃にはカッパ着用となってしまった。

頂上は強風、気温も低い。ツアーの団体も3～4パーティ来ていたが、厳しい気象の頂上には長居することなく、旭岳や愛山溪へと縦走していった。

頂上から石室まで下がってみると、辺りは風、雨共にそれほど強くないので、風当たりの弱い北海沢の方へ行ってみた。

北海沢へ入る尾根は風当たりが強い事が予想されるので、その手前の沢で、しばらくエゾコザクラの群落を楽しみ、その後、雲ノ平の方へ行ってみることにして、引き返した。

雲ノ平のコースも途中まで行くと、先頭の仲間が「向かい風と、吹き付ける雨が顔に当たって痛い、・・・」と続行の相談があり、無理しないで引き返すことにして、散策は石室の辺りを3時間ほどで終わる。

昼食は石室管理人にお願いして、石室を利用して頂き、風雨を避けて食事をし、ゆっくり休息を取る事が出来た。

食事後、希望者で予定に無かった桂月岳に登った。石室から登り20分、下り15分の山だが標高は1938mあり、名の有る山だ。

この度の登山は黒岳と桂月岳の2つのピークをクリアした事になる。

去年は雪が多かったせいか、何処の山でも例年より遅くまで花が楽しめたようだ。

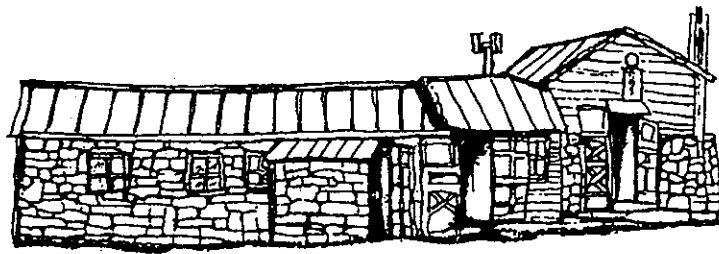
ここでも、エゾコザクラ、チシマツガザクラ、ミヤマバイケイソウ、等が最盛期の様相で特にコマクサが多く、いたる所で楽しめたのは以外だった。

雨の中の下山だったが、みんな健脚ぞろいで、1時間ほどで5合目に到着。

悪天候でお鉢めぐりが出来なかった分、時間にゆとりがあり、下山後に「かんぼの湯」にもゆっくり浸かり、18時前に札幌に着く事が出来た。

目的のお鉢めぐりが出来ず物足りなさが強く残った山行だったが、悪条件の中、体調を崩す人も無く、無事故で終わったのは何よりも良かった。

また、花の季節で天候の良い日に、お鉢めぐりが出来る事を期待しているが、それまで体力が という所です。



黒岳石室

冬の円山登山観察会

平成15年度より低山の登山観察会をサークル活動として実施していますが、冬の円山登山観察会を1月18日（日）行いました。

3日前、全道が吹雪模様となり、当日の実施が危ぶまれましたが、前日の下見できちんと踏み跡がありほっとしました。当日は青空の天気で、12名の参加者が大師堂の登山口に集まりました。

円山の森は1921年（大正10年）に天然記念物に指定されていて、多くの樹種と様々な野草が観察できるコースです。

登山口でカツラの果実を食べているマヒワを見ながら、登り始めました。この山は都心に近く交通の便もよいので、多くの人達が1年を通じ登っています。犬を連れての登山者がいるので、雪上のキタキツネの足跡と犬のそれとの区別が大変でした。キタキツネの他にもエゾユキウサギ、エゾリスの足跡が確認できました。

天然記念物に指定されていることから、カツラ、ハリギリの大木がコース沿いのあちこちで見られます。アオダモ、アズキナシ、ハシドイを確認しながら登っていくと、ウリノキの名木板がありました。葉のないこの時期、名木板がなければ見過ごしてしまうでしょう。頂上からは、遙か夕張岳も望め眺望に大満足でした。

帰りのコースで、おもいがけずクマガラに出会いました。冬の登山観察会には偶然の出会いがあるものです。

冬の低山を登りながらのこのような観察会を16年度も続けていきたいものです。

《観察できた野鳥》

マヒワ ハツトガシ シジュウカシ コゲラ
シメナガ ヒヨドリ コゲラ クマガラ
ハツトガシ スズメ



平成16年度

観察会・研修会予定(案)

北海道ボランティア・レンジャー協議会

月	観察会・研修会	実施日時	下見	集合場所	備考
4	4月の森の観察会	16.4.15(木)10:15~12:00	4.8 10:00	開拓記念館	協力
5	春のありがとう観察会	16.5.16(日)10:00~14:30	5.15 10:00	交流館(大沢口)	協力・昼食持参
	三角山登山観察会	16.5.23(日)10:00~14:00	随時	緑花会前登山口	サークル活動
	恵庭公園観察会	16.5.30(日)10:00~12:00	5.29 10:00	恵庭公園駐車場	主催
6	初夏の森をのぞいてみよう	16.6.6(日) 10:15~12:00	6.5 10:00	森の自然教室	協力
	定山溪ダム自然観察会	16.6.12(土)10:00~14:00	随時	定山溪バスターミナル	サークル活動
	帯広野草園観察会	16.6.20(日)10:00~12:00	6.19		主催・会員研修
7	7月の森の観察会	16.7.15(木)10:15~12:00	7.8 10:00	開拓記念館	協力
	平山登山観察会	16.7.24~25		白滝小栗邸	主催・会員研修
8	夏の森の観察会	16.8.15(日)10:00~14:30	8.14 10:00	交流館(大沢口)	協力・昼食持参
	鶴川観察会	16.8.28~29			主催
9	9月の森の観察会	16.9.16(木)10:15~12:00	9.9 10:00	開拓記念館	協力
	オホーツク支部研修会	15.9.18~19		白滝小栗邸	オホーツク支部主催
10	室蘭測量山野鳥観察会	9月下旬~10月上旬		後日決定	会員研修
	10kmエコハイキング	16.10.3(日)10:15~14:30	10.2 10:00	開拓記念館	主催
	秋の森の観察会	16.10.17(日)10:00~14:30	10.16 10:00	交流館(大沢口)	協力
11	秋のありがとう観察会	16.11.7(日) 10:00~14:30	11.6 10:00	交流館(大沢口)	協力・昼食持参
	西岡水源地自然観察会	16.11.23(火) 10:00~12:00	11.22 10:00	管理事務所前	主催
12	12月の森の観察会	16.12.16(木)10:15~12:30	12.9 10:00	開拓記念館	協力
1	円山登山観察会	16.1.16(日)10:00~12:30	1.15 10:00	円山登山口	主催
2	藻岩山登山観察会	17.2.6(日) 10:00~14:30	2.5 10:00	藻岩会登山口	主催
	冬の森の観察会	17.2.20(日)10:00~12:15	2.19 10:00	交流館(大沢口)	協力
3	野幌の春を探そう	17.3.6(日) 10:00~12:30	3.5 10:00	交流館(大沢口)	協力

観察会計画の基本方針

1. 野幌森林公園事務所の行事計画に積極的に協力する。
2. 会員研修を年間計画に位置付ける。
3. 支部主催行事については研修部、事務局が協力実施する。
4. 時代や社会の要請をうけ、新しい企画を考える。
5. 下見については、原則として前日とする。(4、7、9、12月の森の観察会は前週木曜日)
6. サークル活動を活発化させる。(会員の観察会の発信と事務局、研修部の協力)

平成16年度 小樽支部 観察会(案)

4月25日(日)	赤岩山～オタモイ海岸	赤岩2丁目バス停前	9:00
5月22日(土)	銭函天狗～銭函川～桂岡	国道5号線銭函バス停前	9:30
6月26日(土)	積丹岳	貸切バス第三ビル前	6:30
7月10日(土)	大平山(健脚向き)	島牧村役場	7:30
9月25日(土)	余市岳(バス乗り場前)	キロロ終点バス停	9:30
10月16日(土)	最上町～遠藤山～穴滝	丸山最上町登山口	9:00
11月6日(土)	市有林後納会(昼食会)	しが長橋店駐車場	8:30
2月19日(土)	天神浄水場～天狗山東斜面	天神浄水場広場(カンキ)	9:30
3月27日(土)	塩谷丸山	JR塩谷駅駐車場(カンキ)	8:30

参考

1. 約1週間前に新聞(道新小樽版、読売新聞金曜日夕刊)に集合場所、時間を掲載予定。
2. 天候の都合で、日時変更することがありますので、事前に申し込みしてください。
3. 参加料は300円です。貸切バスは実費。(当日受付)
4. 自家用車の方は、事前に連絡してください。(駐車場の状況、乗り合わせの可否等)
5. 申し込み問い合わせ等は、☎ 0134-27-1701 北原宅まで。

平成16年度フォレストガイド講座実施要領

1 目的

地域で森林を利用する人々に森林やみどりについての知識を解説する「みどりの指導者」を養成するため、フォレストガイド講座を開講する。

2 実施場所および実施期間

(1) フォレストガイド春季講座

春季の素材活用による森林の仕組みと機能、森の動植物、森林解説活動などの学習。

本 場 5月18日～20日 3日間

(2) フォレストガイド秋季講座

秋季の素材活用による森林の仕組みと機能、森の動植物、森林解説活動などの学習。

本 場 10月13日～15日 3日間

3 対象者

「みどりの指導者」を志す人。

4 講座内容

別記1のとおり。

5 受講申し込み

受講を希望される者、または受講を希望する者の所属長は別記2の受講申込書により、開催日の2週間前までに、林業試験場長に申し込みをする。

6 その他

本講座の受講に要する経費のうち、テキスト代は道が負担する。

フォレストガイド春季講座

講座内容と日程

時 日	9:00	12:00	13:00	17:00
第 一 日 目			≪開講式≫ 13:00～13:15 ≪室内講義≫ 13:15～17:00 (1) 森・みどりのめぐみ (2) 森林の公益的機能と森林施業 (3) 森林・林業の教育概念	
第 二 日 目	≪現地実習≫ 9:00～12:00 フォレストガイドの方法と技術 (1) ガイドの手順説明 (2) フィールドの確認 (3) 指導案の検討 (4) プログラムの作成		≪現地実習≫ 13:00～17:00 フォレストガイドの方法と技術 (1) 解説活動の実践 (2) 解説実習の意見交換	
第 三 日 目	≪室内実習≫ 9:00～12:00 フォレストガイドの総合検討 (1) 解説活動の総合検討 (2) 事故防止と応急手当 (3) 春の森林ガイド法のポイント		≪室内実習≫ 13:00～15:45 (1) 川と森林の結びつき (河畔林の役割) (2) 森林動物と人との関わり ≪閉講式≫ 15:45～16:00	

林業試験場の講座

美唄光珠内の林業試験場で行われるフォレストガイド講座の案内がきています。動植物の知識と観察会のガイド技術の向上によい機会です。

春と秋の2回行われますが、講座の内容はほぼ同じです。参加希望の方は、事務局に申し込み用紙が届いていますのでご連絡ください。

事務局 田村 (札幌市東区東苗穂1 1条2丁目14-18 TEL011-791-0127)

編集後記

- ◆待ちに待った春です。ミズバショウの白、フクジュソウの黄、エゾエンゴサクの青と森に出かけると心が浮き立ちます。平成16年度の活動が始まるにあたり各地の会員の皆さんの情報を広報部・事務局にお寄せください。
- ◆平成16年度の定期総会が4月10日開催されます。詳細は3ページに記載されています。多くの会員の皆さんの出席を望みたいものです。
- ◆寄せられる「会員の声」を読ませてもらうと、各地での観察会等の活動の必要性が伝わってきます。ぜひ各地からサークル活動の計画を発信してください。「エゾマツ」でPRしていきます。
- ◆「エゾマツ」の内容についての感想をお寄せください。会員の皆さんの感想や意見が「エゾマツ」を充実させていきます。

北海道ボランティア・レンジャー協議会
会報誌「エゾマツ」No.68 2004. 3. 28 発行
発行責任者 川 端 功 治

表紙絵 ゴジュウカラとキバシリ

ゴジュウカラは寒さの厳しい頃から大きな声で囀りを始めます。ご存じ、丈夫な足を持ち、樹木の幹を頭を下にして移動できます。ゴジュウカラは日本では3亜種に分けられ、北海道に生息するのはシロハラゴジュウカラです。

一方、キバシリは樹木の幹に縦にとまりますが、ゴジュウカラのように頭を下に向けて幹を下ることはできません。餌の取り方は樹木の幹を根元から螺旋状に上がっていき、次の木の根元に飛び移ってまた上がるという探餌行動を繰り返します。